

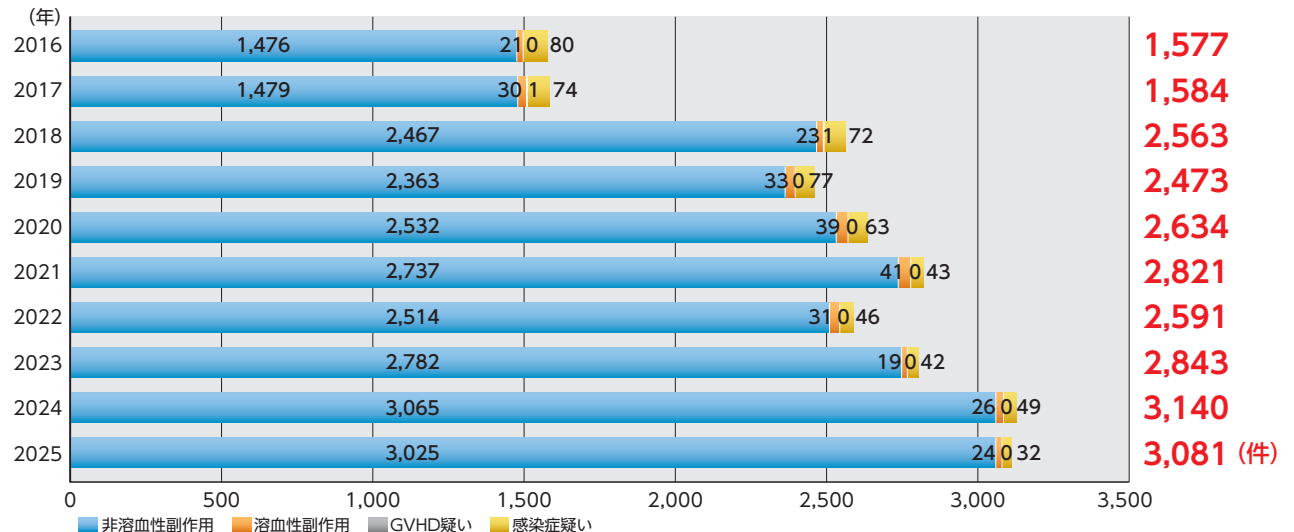


赤十字血液センターに報告された非溶血性輸血副作用 -2025年-

2025年の1年間に、医療機関において輸血による副作用・感染症が疑われ、赤十字血液センターに報告された症例のうち、最も報告数の多い非溶血性輸血副作用についてお知らせします。

副作用・感染症報告数の推移及び副作用の種類

(輸血との関連性なしとされた症例も含みます。)

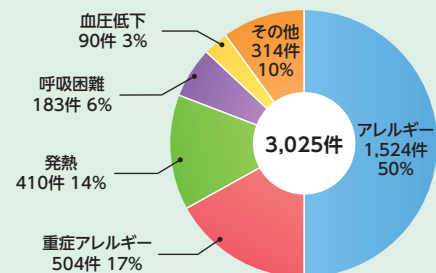


2025年の非溶血性輸血副作用報告数は3,025件であり、輸血による副作用・感染症報告数3,081件の約98%を占めていました。2018年からの報告件数の増加は調査方法の変更によるものです。

非溶血性輸血副作用 (2025年)

■非溶血性輸血副作用の報告件数について

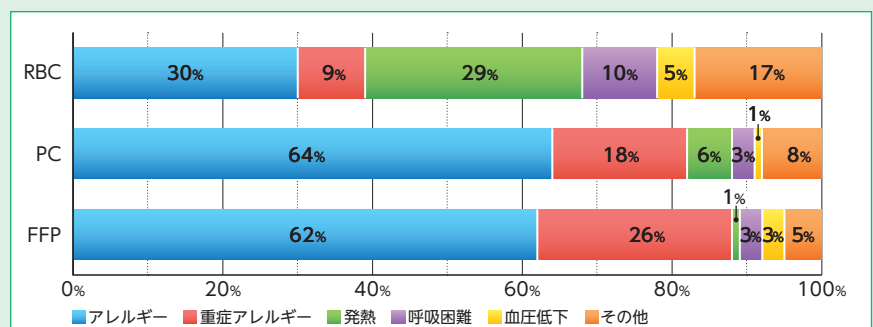
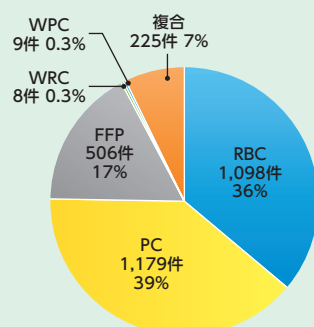
「アレルギー」が最も多く1,524件(50%)報告されています。重症アレルギーを含め、副作用報告の約7割がアレルギーでした。呼吸困難には、TRALI、TACOが含まれており、内訳はTRALIが13件、TACOが80件、呼吸困難が90件となっています。



■使用製剤の種類及び製剤毎の副作用(症例別)報告内訳

赤血球製剤及び血小板製剤による副作用が多く報告されています。

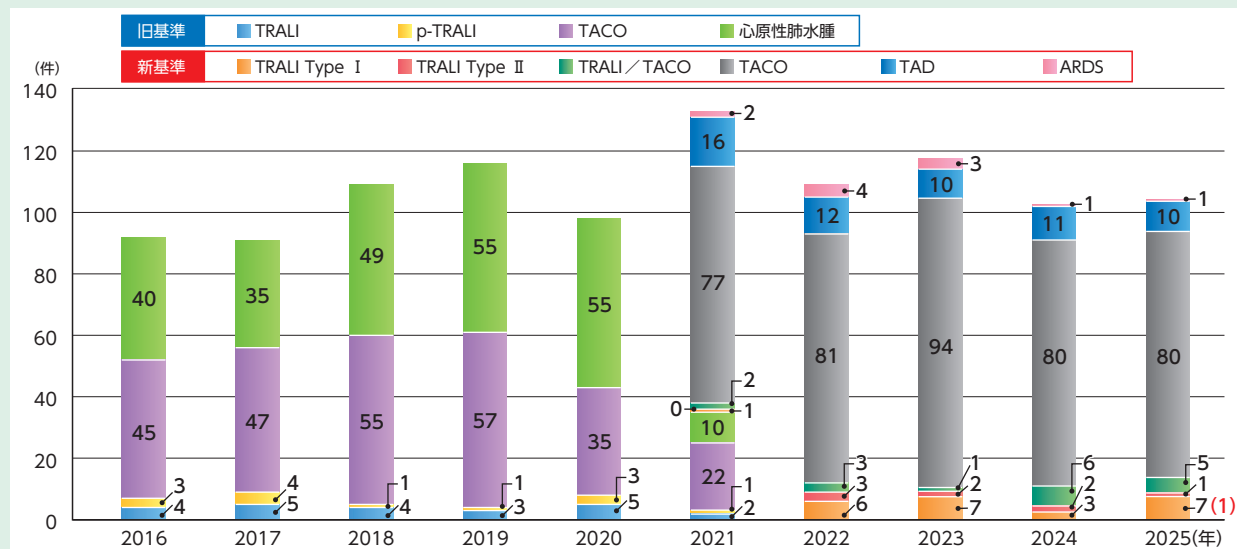
赤血球製剤では他製剤と比べて発熱と呼吸困難が、血漿製剤、血小板製剤ではアレルギー、重症アレルギーの報告割合が特に多くなっています。



割合については、四捨五入をしているため、合計が100%になっておりません。

■TRALI/TACO症例の推移(2016年～2025年)

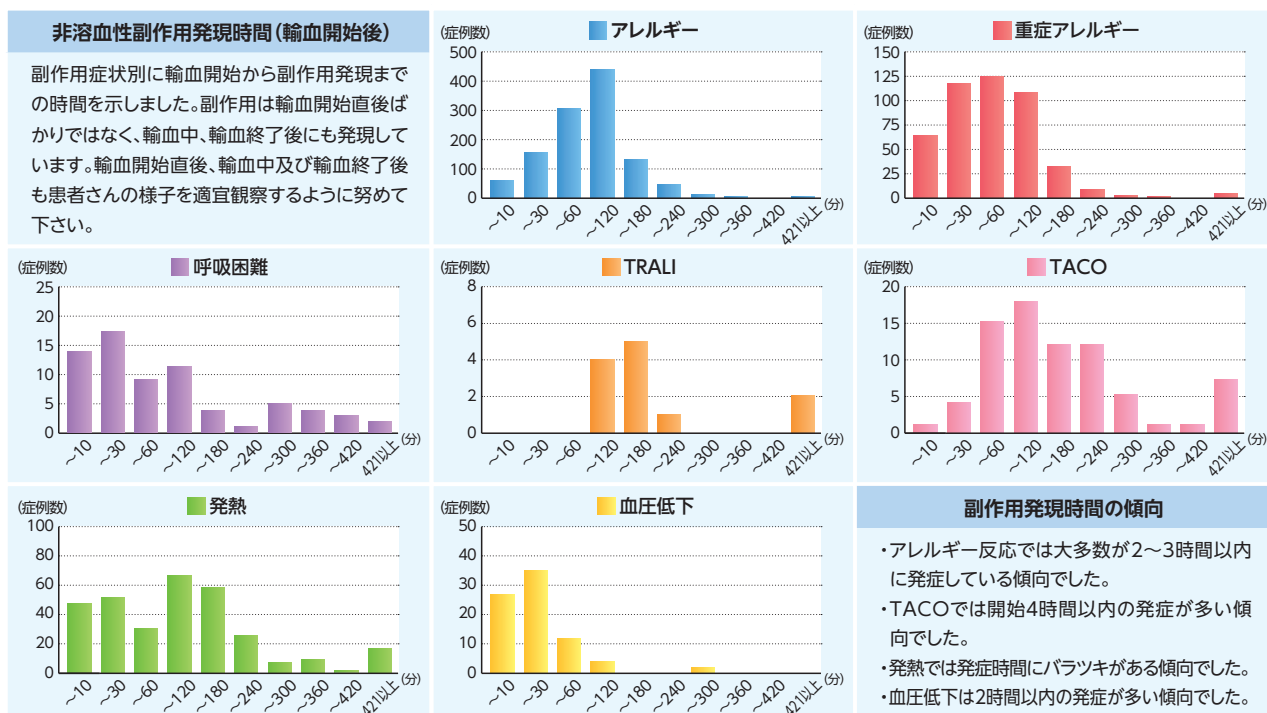
2021年4月報告分からTRALI及びTACOの評価基準を変更しております。



※ () : TRALIによる死亡が否定できない症例

TACOはTRALIと同様に重篤な症状を呈する副作用の一つであり、毎年数十件の報告があります。輸血する際には、輸血前の患者の心機能や腎機能などを考慮の上、輸血量や輸血速度を決定することが重要です。

■2025年副作用分類別の発現時間(不明を除く)



※被疑製剤が複数本ある場合には、最初の製剤投与開始からの発現時間となります。

輸血用血液製剤の使用による副作用・感染症が疑われた場合は、直ちに赤十字血液センター医薬情報担当者までご連絡ください。また、原因究明のために、使用された製剤及び患者の検体等の提供をお願いすることがあります。なお、使用された製剤及び患者の検体は「血液製剤等に係る遡及調査ガイドライン」及び「輸血療法実践ガイド」を参照のうえ保存してください。

日本赤十字社 医薬品情報ウェブサイト

製品情報・輸血情報等についてはこちら

日本赤十字社 医薬品情報

検索

<https://www.jrc.or.jp/mr/>



輸血情報 2609-193

〈発行元〉

日本赤十字社 血液事業本部 技術部 学術情報課

〒105-0011 東京都港区芝公園1丁目2番1号

※お問い合わせは、最寄りの赤十字血液センター医薬情報担当者へお願いします。